わくわく広報

W・A・K・U
W・A・K・U
W・A・K・U・Y・A

1
Jan. 2023
No.810

3年ぶりに涌谷町の子どもたちが金のいぶきをお届けしました。

1月号の主な掲載記事

☑年頭のあいさつ …… P.2
☑コロナ禍で輝きを増す現代の金
金のいぶき …… P.4
☑幻桜ライトアップイベント
…… P.11
☑涌谷町農業委員
涌谷町農地利用最適化推進委員を募集します
…… P.16

コロナ禍後と未来を見据えた
笑顔あふれるまちづくりを実行

明けましておめでとうございます。

町民の皆様にはお健やかで輝かしい新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

また、日頃より町政運営に対し、温かいご支援、ご協力を賜りまして、心からお礼申し上げます。

令和２年１月に、わが国で新型コロナウィルス感染症が確認されてからはや３年の月日がたとうとしております。我が国のみならず、全世界においていまだに感染者の増減を繰り返し、一喜一憂の日々が続いておりますが、少しづつ日常の平穏が戻って来ているようにも感じられます。涌谷町におきましても、わくや夏まつりをはじめ、秋の山唄全国大会など、コロナ禍によって中止されていた事業が３年ぶりに開催されるなど、賑わいを取り戻しつつあります。これもひとえに、涌谷町内の医療従事者の皆さまにご協力をいただいて実施しているワクチン接種と、町民の皆さまの積極的なワクチン接種や感染予防対策に注力していただいている成果にほかなりません。新型コロナ感染症につきまして、国では二類感染症から五類感染症への引き下げの議論が始まろうとしておりますが、町としては、引き続き高い緊張感を持って感染拡大防止に努めてまいります。

私が町長に就任いたしまして３年７カ月が経過いたしました。その間の予算編成は、平成31年１月に発令された財政非常事態宣言を受けて策定した財政再建計画を着実に実行して、将来の町民の皆さまに大きな負担を残さぬよう、そして、町民の皆さまが笑顔で暮らせる涌谷町とするための予算を編成してまいりました。町民の皆さまのご理解の下、令和３年度では財政再建計画において、３億７６６４万９千円の効果をみることができました。また、令和３年度決算におきましても、町の財政の指標となる実質公債費比率や将来負担比率がこれまで以上に改善いたしております。このことは、皆さまのご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。一方、皆さまにご心配いただいております国民健康保険病院事業におきましては、コロナ禍による受診控えなどにより非常に厳しい経営状況が続いております。令和２年度から開催してまいりました「町財政及び病院事業に係る有識者会議」から、令和４年５月に提出された答申を基に、病床数のダウンサイジングなどを着実に実行し、経営改善に向けさらなる努力をして、信頼される

町立病院の存続を目指してまいります。

農業の振興におきましては、農業経営の基盤となる農地の汎用化を促進し、労働生産性の向上を図るためのほ場整備に取り組みながら、担い手への農地集積・集約化を積極的に推進してまいります。引き続き取り組んでおります高付加価値農作物への転換の推進として、米価が上昇している「金のいぶき」の栽培を支援してきたことで、令和４年度の作付面積は約81・５ヘクタールに拡大しており、なお一層の事業推進に努めてまいります。商工業におきましては、コロナ禍の影響で厳しい状況が続いている事業者の皆さまを継続的に支援しつつ、消費を喚起するための商品券事業を行うなど、コロナ禍からの回復に向けた取り組みを展開してまいります。観光振興におきましては、日本遺産「みちのくＧＯＬＤ浪漫」の構成市町として石巻市が追加認定され、３市３町で新たな船出をすることとなり、石巻市の参加で事業に厚みが増すことが期待されます。

少子化による人口減少に歯止めをかける取り組みの一つとして、多様な保育ニーズに対応する町立幼稚園での預かり保育事業を継続して行くとともに、令和５年春には新たに民間による認定こども園が、わくや天平の湯に隣接しオープンするなど、引き続き子育てがしやすい環境づくりを図ってまいります。

近年、全国各地で異常気象により災害が頻発しており、涌谷町においても令和４年７月15日に発生した大雨により出来川が決壊するなど、大きな被害が発生いたしました。その際には、消防団の出動をはじめ、多くの関係機関の皆さまにご尽力をいただき、被害の拡大防止に努めていただきましたことに、あらためて感謝を申し上げます。引き続きいつ起こるか分からない災害に備え、より実践的な住民参加型の総合防災訓練の実施など、防災意識の普及・高揚に努めてまいります。

町の活力を生み出していくためには、町民の皆さまが主役となり、行政も参加するという「自助・共助・公助」を基本とする協働型まちづくりを推進していくため、現在活動中の３人の地域おこし協力隊に新たに３人を迎え入れるほか、各自治会活動の支援も行い、地域住民の連携強化と自治意識の醸成を図ってまいります。

令和５年度には、５カ年計画である財政再建計画の最終年を迎えることから、これまで積み上げてきた成果に慢心することなく、これまで以上に一つ一つの課題に全力で真摯に取り組み、コロナ禍後が、そして、未来がより多くの笑顔であふれる涌谷町になるように努めてまいりますので、町民の皆さまにはなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新年が町民の皆さまにとりまして、希望あふれるすばらしい年になりますように、心からのご祈念を申し上げまして、年頭の挨拶といたします。

涌谷町長　遠藤　釈雄

特集

金のいぶき

～コロナ禍で輝きを増す現代の金～

「金」を名に冠する品種「金のいぶき」。一般銘柄の在庫過多・米価低調が続くコロナ禍においても、その栄養価や食味といった付加価値から供給が不足するほどの人気ぶりです。

その市場価値は、米穀界の黄金と言っても過言ではありません。

今回は、令和４年の生産状況と３年ぶりに篁岳白山小学校の児童も参加した平城京天平祭東大寺参詣、世界の食と観光にまつわる専門家・事業者などにPRする機会となったUNWTO（国連世界観光機関）ガストロノミーツーリズム世界フォーラムについてレポートします。

水害を乗り越え 過去最高の出来栄え

令和４年７月15日に水害が発生したものの、涌谷町の金のいぶきは、例年以上の収穫量・品質となりました。ひとめぼれなどの銘柄は全般的に減収となりましたが、金のいぶきは、大きな被害を受けた生産者を含んでも前年度に比べて平均収穫量が10アール当たり約１俵増加し７・８俵（最高９・４俵）となり、また、１等米が出にくい品種にもかかわらず、全体の３割が１等米（昨年度は１軒の経営体のみで１割未満）で、２等米も含めると上位等級は全体の９割を占め、収穫量だけではなく品質も向上しました。

令和４年の気候は６月上旬に低温多雨で稲の茎数が少なくなり、７月に入ってからの高温によって草丈が一気に伸びたことで倒伏しやすく生育。ひとめぼれなどの銘柄では、大きく収穫量を落としたほ場もありました。金のいぶきの生産現場では、これまで蓄積させてきた生産マニュアルに基づき、幼穂（ようすい）形成期と減数分裂期に適切に追肥したことで、稲の栄養状態の指標となる葉色を維持でき、登熟が順調に進行しました。品質低下を招くカメムシの被害やくず米が少なく、米粒の張りの良い実りとなりました。

近年下落が続いていた米価において、金のいぶきは昨年上昇した価格を維持し、１等米で約１万６千円、２等米で約１万５９００円と推移しています（ひとめぼれは１等米概算払いで１万５００円）。

錬金術ともいえる 持続可能な生産体制を

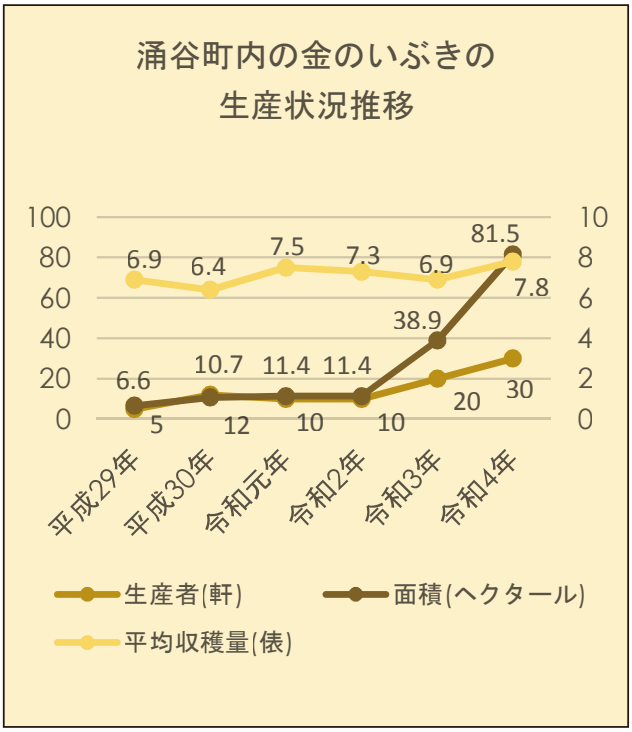
近年の円安に起因する肥料などの生産資材の高

今年の秋も涌谷町のほ場に金のいぶきが花咲きました。

騰といった課題は金のいぶきの生産現場にものしかかります。しかし、宮城県や農協、生産者と連携し、安価な有機飼料と堆肥を組み合わせ、生産コストを圧縮させることを目的とした実証栽培に取り組み始めており、収穫量を増加させる成果が出ています。

平成29年度から5軒の経営体で始まった金のいぶきのブランド化は、令和4年度までに30軒の経営体まで増え、作付け面積も81・5ヘクタールとなりました。その作付け面積は、宮城県内において、大崎市(約122ヘクタール)と登米市(約86・5ヘクタール)に次ぐ面積ですが、平成の大合併以前の旧市町村単位では、断トツの生産量となっています。令和5年度には100ヘクタールを超える見込みで、銘柄別の栽培面積でササニシキ(令和4年度実績92・1ヘクタール)を超えて第3位となり、名実ともに日本初の産金地・涌谷町の現代の金としてのブランド米の地位を確立しつつあります。

この現状に対し、農林振興課農産園芸班長の藤崎幸治(こうじ)班長は、「昨年度と比べて10軒の経営体が増えましたが、新規の生産者もマニュアルに従って栽培したため、1軒当たりの平均収穫量・質が向上しました。高い米価を維持している銘柄ではありますが、行政や農協だけではなく、生産者の皆さんにも、日本初の産金地のブランド米を手掛けているという誇りが芽生え、責任を持って生産に臨む意識が浸透してきている」と機運の高まりを実感しています。



金のいぶきを東大寺大仏殿に献納

筥岳白山小の児童も参列

令和4年11月3日(木)に、奈良市で開催された平城京天平祭東大寺参詣に合わせて筥岳白山小学校の5年生児童が栽培に取り組んだ金のいぶきを東大寺大仏殿に献納しました。献納には、髙橋宏明副町長と生産者に加えて、栽培に取り組んだ児童の中から代表で高梨恵介くんと西山明希さんの2人が参加しました。児童の参加は、3年ぶりです。

天平祭当日は、晴天に恵まれ、華やかな天平衣装をまとった聖武天皇・光明皇后に扮した一行とともに、観光客が戻りつつある奈良市内を、金のいぶきと書かれた垂れ幕を付けた俵を担ぎながら練り歩きました。今回は、東大寺だけではなく、世界遺産「古都奈良の文化財」の一部として登録されている興福寺も参詣。

東大寺では、大仏殿前において、金のいぶきを大仏殿に捧げ、橋村公英別當を中心に東大寺を建造された聖武天皇・光明皇后を供養する法要が執り行われました。

また、天平祭前日に、東大寺寺務所を訪問し、橋村別當に面会。金のいぶきの栽培に臨んだ筥岳白山小学校の児童たちが作った特製の幕を贈呈し、盧舎那仏前に掲げていただきました。さらに、大仏殿内で東大寺にまつわる歴史や涌谷町とのつながりを子どもたちや生産者に解説していただきました。

行列に参加した児童は、「東大寺と涌谷町の昔の歴史や伝統的な文化を知ることができ、参加してよかった」と話し、2日間にわたるまたとない特別な体験に感激していました。

世界の美食家に金のいぶきをPR

令和4年12月12日(月)から12月15日(木)までの期間、奈良市で開催された第7回UNWTOガストロノミーツーリズム世界フォーラム内のガラディナー(12月13日(火)実施)に、奈良市からの後押しを受けて出展し、国内外から来場された食と観光にまつわる専門家や事業者らに涌谷町産の金のいぶきを提供しました。

提供メニューは、奈良県版ミシュランガイドでビブグルマンに選出されている奈良市の隠れ家居酒屋「はらぺ子」に開発を依頼。トマトやタコ、昆布などと一緒に炊き上げ、金粉をまぶした2種類のライスボールを提供しました。和食にも洋食にも合う金のいぶきの特徴を生かした調理方法で、美食家たちを楽しませていました。

今回の出展では、試食提供だけではなく、地域おこし協力隊のクリス隊員が通訳し、金のいぶきの取引にかかわる商談機会の創出や日本遺産「みちのくGOLD浪漫」にまつわる観光の紹介にも取り組みました。

日本初の産金地だからこその価値の磨き上げ

まだまだおもしろくなる金のいぶき

涌谷町では、これまでの6年間、金のいぶきのブランド化を推進してきたことで、近年の温暖化や低温多雨などの異常気象の影響を受けにくい栽培マニュアルを確立しつつあります。

また、コロナ禍に端を発する健康志向の高まりにより、おいしくて健康的な食生活に寄与する銘柄として、米価を維持しながら需要過多の状況が続くと想定されます。

さらに、日本初の産金の歴史や日本遺産「みちのくGOLD浪漫」と関連付けることで、農業・食・観光などの各事業のストーリー性を深められ、人々の関心を引くことができます。

涌谷町では、金のいぶきを現代の金として磨き続けていきます。

第59回宮城県中学校弁論大会

秋山ちひろさんが最優秀賞を受賞

11月11日(金)に実施された第59回宮城県中学校弁論大会において、17人が出場したうち、涌谷中学校3年生の秋山ちひろさんが最優秀賞を受賞しました。

「トンネルの向こうに見えたもの」という演題で、コロナ禍の影響でさまざまな制限はありながらも実施できた学校行事を通して、変化を受け入れ、チャレンジしていくことの大切さを学び、困難な状況でも柔軟に考え、前向きに取り組むことで自分自身を成長させてきたという内容を発表しました。

宮城県交通安全ポスター作文コンクール

相澤有愛(ゆあ)さんが宮城県教育委員会教育長賞を受賞

宮城県内の小中学校の児童・生徒を対象とした宮城県交通安全ポスター作文コンクールで、涌谷中学校2年生の相澤有愛さんが、交通安全ポスター中学校の部で、応募総数52点の中から宮城県教育委員会教育長賞を受賞しました。

相澤さんの作品は、自転車を運転する目線で自転車の前方を歩く高齢者と「事故を起こせばあなたも加害者」というメッセージが描かれ、自転車の利用者に向けた交通安全を啓発するデザインとなっています。

みやぎ花のあるまちコンクール

黄金自治会が最優秀賞を受賞

宮城県のすばらしいみやぎを創る運動の一環として実施されているみやぎ花のあるまちコンクールにおいて、黄金自治会が最優秀賞を受賞し、11月15日(火)に表彰状が伝達されました。

黄金自治会では、広報わくや12月号にも掲載したとおり、涌谷高等学校前の国道346号線沿いを天平フラワーロードとして春と秋に花壇整備や清掃など地域の環境美化活動に取り組んでいます。

交通安全は茶の間から

交通安全母の会研修会を開催

11月15日(火)に、わくや天平の湯において、宮城県交通安全母の会連合会大崎・栗原地区連絡協議会の研修会が開かれました。会には、大崎市や栗原市、加美町、色麻町、美里町、涌谷町の交通安全にかかわる母の会会員が一堂に会しました。

研修会では、遠田警察署交通課の猪股邦章(いのまたくにあき)課長による講演の他、運転時に重要となる反応速度や俊敏性を測定するための専用の機器を使ったデモンストレーションが行われ、安全運転に対する意識高揚の機会となりました。